

第12回 もも脳ネットコアメンバー会議議事録

日時：平成25年4月17日（水）19時～20時

場所：岡山赤十字病院 2階講義室

出席者

岡山医療センター：高瀬 MSW

岡山旭東病院：野間 PT、片岡 PT

岡山光南病院：西崎 Dr、宮森 Dr

岡山市民病院：桐山 Dr、梅田 Ns、植田事務

岡山赤十字病院：片岡 Dr、西本 Dr、内藤 MSW、石原 MSW

岡山中央奉還町病院：山本 MSW

岡山リハビリテーション病院：森田 Dr

岡山労災病院：片山 Dr、松下 MSW

金川病院：大森 Dr、森重 MSW

川崎病院：井上 Dr、岩永 Dr、額田事務、佐藤事務、小野事務、鈴木 MSW

藤田病院：赤木 PT

備前県民局：平田氏

計 11 施設 26 名

1. もも脳ネットにおける幹事病院および事務局について

○幹事病院について

- ・従来は医療センターと日赤の2病院で交互に幹事をしてきたが、今後は複数の病院で幹事を持ち回り、その代り事務局は1か所に固定するという体制がよいのではないか。
- ・次の運用会議で提案し、基本的に今回出席した病院で幹事を持ち回りで担当する（金川病院は医療センターと合同で担当、岡山中央奉還町病院と藤田病院は回答保留→その後回答あり、岡山中央奉還町病院は担当可、藤田病院は辞退）
- ・主要な医師の転勤に伴い運営が不安定にならないような体制づくりが必要。
- ・危機管理という点でも、世話人会や理事会のような、議論の上で結論を出せる決定機関が必要ではないか。

○事務局について

- ・現在日赤病院に事務局があるが、脳卒中科休診という状況下で、新たな議題が発生した際に、相談や協議がスムーズにいかないため事務局としてもフットワーク軽く物事を進められないという問題が生じている。
- ・もも脳ネット立ち上げのころに比べると、事務局業務は落ち着いている。ホームページも活用されているためか、問い合わせなども減っている。

- ・事務局業務は、主には運用会議の企画・運営、運用会議でのパスの運用状況報告用のデータ取りまとめ（各病院へデータ集計の依頼、集約、督促等）、ホームページやメールリングリストの管理が中心。ほぼルーチン業務と思われる。
- ・井上医師、岩永医師がもも脳に関わってくださってきた今までの経緯から考えても、事務局は川崎病院に置く方向でよいと思われる。
- ・日赤病院としては、事務局を他病院へ移管することは問題ない（院内上層部にも確認済）
- ・事務局と会場が異なっても、運用上特に問題ないと思われる。
- ・業務の申し送りも必要であるため、移管は段階的に進めていく方向で検討する。

○運用会議について

- ・企画は当番の幹事病院と事務局で行う。司会は幹事病院の代表者、統計処理＋報告は従来通り脳卒中は岩永 Dr、頸部骨折は片岡 Dr で行う。
- ・会場は、参加人数が 100 人超である現状から考慮し、従来通り医療センターと日赤で持ち回りとする。
- ・現在、運用会議の内容が若干事務的になりつつあるので、今後はもう少し病院間の連携やパスの運用上の問題点等を掘り下げた内容も加えていく。
- ・運用会議は参加人数が多すぎて意見を出しにくい状況でもあるので、コアメンバー会議を適宜開催し意見を拾い上げ検討していく。

2. 市民フォーラムについて

- ・開催方法：共催でもよいが、会計的なことは 1 病院で取りまとめる必要がある。それ以外は内容によって分担を決めることも可能。
- ・現在までの市民フォーラムの幹事は、第 1 回は日赤、第 2 回は旭東、第 3 回は労災と光南の共催。
- ・平成 25 年度の市民フォーラムの幹事病院は川崎病院とする。
- ・来年度も予算がつくのであれば市民病院と岡山リハビリテーション病院との共催か。
- ・来年度予算がつくかどうかは、今年の秋頃に決定する。

3. その他

○NPO 法人化について

- ・NPO 法人化のメリット、デメリットを理解したうえで検討していく必要あり。
- ・法人化すれば、予算の受け皿が常に一定というメリットはある。
- ・会計の報告等が必要になるため、専任の事務員を雇用する必要がある。
- ・法人を立ち上げることは難しくないが、継続していくことは難しい。理念や規約を明確にしていないと先細りしてしまう可能性も大いにある。（法人を閉じる際には手数料が約 10 万円かかる）

- ・現状では NPO 法人化は時期尚早か。
- ・もも脳ネットがもう少し安定した組織になった上での法人化が望ましいのではないか

○定款について

- ・現在もも脳ネットは緩やかな集合体であるが、組織として定款を定めていくことも必要。その先に NPO 法人化という流れになってもよいと思われる。
- ・法人化するかどうかにかかわらず、定款は現時点で定めていく必要あり。
- ・もも脳ネットにあまり参加していない、大学病院等の主要病院の了承を得て行くことも必要。

○オーバービューパスの改訂について

備前県民局 平田主幹より

- ・(オーバービューパスの記載内容に不足があると厚生局から指摘を受けたという問題提起があった) 前回の運用会議後、県庁医療推進課に問題提起している。厚生局や倉敷地域の病院から指摘があった内容について、書式変更が必要なのか別紙添付でよいのか県庁を通して厚生局に確認中。年度替わりもあり、結論が出るのは今夏以降か。県庁でも早急に対応すべき事項として認識している。
- ・今後の状況によっては実務に携わっている医師等から県庁へパスの運用状況などの現状についてご意見をいただく必要があるかもしれない。
- ・オーバービューパス 1 枚に全ての情報を掲載するのは現実的に難しい。
- ・倉敷地域では南東部のような CD-RW 添付がない等運用方法の違いもある。
- ・大腿骨頸部骨折のオーバービューパスも同様の書式なので、改訂するのであれば同時に行う。

以上の内容を、次回の運用会議(6/19)で提起し、了承を得ていくこととする。

(書記 岡山赤十字病院 石原)